

1
知ることで始まる防災

花管小学校

五年

鈴木

環太

一学期の終業式が終わり、ぼくが夕方の二
ユースを見ているとうれしい声が聞こえてき
た。

夏休みを前に、寸断されていた国道158
号線がいに通行できるようになりました。
待ちわびたドライバーが新しく完成した仮設
道路を通行しました。

映像ではたくさんの車が列になって進んで

いた。新しくきれいな道路の横には、また土
砂で埋もれている道が見えた。この道は、今
年三月十九日に起きた土砂崩れによって、4
か月の間、封鎖されていたという。ぼくがい
っくり見ていると、お父さんが、
「ついに通行できるようになったのか。それ
じゃあ三連休に遊びに行ってみようか。」
と、言った。ちょうど近くに化石発掘を体験
できる施設があり、ずっと前からぼくが行き
たかっていたからだ。ぼくは、うれしい気持ち

ちと本当に通れるのか心配な気持ちになった。翌日、さっそう家族みんなで向かった。山と湖にはさまれたくねくね道を進むと、二メートルで見た映像と同じ場所にたどり着いた。お父さんがゆくりと進む。崩れた山肌は、茶色い土があらわになっている。一緒に崩れてきたのだろう木が、むき出しになって崩れ落ちていて、ぼくはとても怖かった。それに今にもまだ崩れてきそうなふんい気もある。大きな岩がゴロゴロと転がっていて、いくつ

かは下に流れる川にまで転がり落ちていくみたいだった。通りぬけるのは一瞬のことだった。けど、その風景が、ぼくにはとても心に残った。きつと通行している間に、実際に土砂崩れが起きたら、にげ場はないだろうと思っただ。今、通ってきた道も、もしかしたら大雨や大雪で崩れるかもしれない。そう考えると、ぼくはふるると身震いした。

実際に通ってみて感じたのは、この道を作るのは、とても大変だったのではないかとい

うことだ。まず道が分断されているため、道を作るための道具や資材を持ってくることが難しいのではないかと感じた。しかも今にもまた崩れてきそうな土砂をどける作業は、きっと死も伴う危険な作業ではないかと思った。それなのに、四か月で完成するなんて、きっとたくさんの工事作業員さんの努力のおかげだと思った。通ってきた道のいくつかの場所には工事車両を置いておくための場所や作業員さんの休息所や仮説トイレが置かれていた。

近くにお店もないこの場所で、交代で休息を取りながら毎日作業をされていたのだと思うと、とても大変で立派な仕事だと感じた。

家に帰ってきて、^っもしも自分の家の近くで土砂災害が起きたらどうしたらいいのだろうかと考えた。家の前の道が土砂で埋まってしまうたら、学校も行けなくなってしまうだろう。もし学校に行っている時間に土砂災害が起きたら、ぼくも両親も家に帰れなくて家族は、離ればなれになってしまっだろう。万

